
メリープ()は怒っている！

瀧音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メリープ（ ）は怒っている！

【Nコード】

N2507BA

【作者名】

瀧音

【あらすじ】

あつ！とある森から不思議な一行が現れた！

・・・はあ、ホントに頭が痛いわ。
ああ、そこにいるあなた。どうか私の愚、ゴホンツ！話を聞いてく
ださいませんか？

私はあるトレーナーのメリープです。

あの人と出会ったのは丁度3ヶ月前。彼はそのときまだ弱くてうじ
うじしていた私を、仲間として向かえてくれました。

・・・実は私、野生のポケモンでしたの。でも、彼に出会って、彼
と一緒に居たくて、彼の元へ突撃しました。

その後、すぐに後悔しました。彼のポケモンには先輩であるワニノ
コさんと、同時期に入ったデルビルがいたので・・・二匹は、
とても強かった。

そのときの私はせいぜい電気ショックを放てるくらいで、とても一
匹で戦えるようなポケモンではなかったんです。しかも意気地なし
で、いざ戦おうとすると足がすぐんで全然動けませんでした。

ワニノコさんとデルビルも元々そこまで強くは無かったそうです。
強くなれた理由は、私たちのトレーナーさんの指導。あの人が提示
する修行をこなしていたら、いつの間にか強くなってた、と話して
くれました。

でも最初、私はその修行をしたくありませんでした。わたしは意気
地なしで弱虫だったので、彼らがボロボロになるまで特訓している
のを見て、『自分にはできない』『痛いのは嫌だ』と思い込み、そ
しておびえてしまったんです。・・・今思い出すと、体当たりした
くなりますね、自分ですけど。

ポケモントレーナーに必要なのは、強いポケモンのみ。
その固定観念もあって、私はどんどん追い詰められていきました。
そして、『自分はここにいないほうがいい』と考え始めたとき。

彼が私の目を見ながら、こう言ったんです。

『まさか、『自分はここにいないほうがいい』なんて考えてないよね？

自分が弱いから、役に立たないから、修行もしないから？
何言ってるんだよ。

弱虫でも、意気地なしでも、思ったんだろ？

『強くなりたい』って。

だからお前は、あの日僕のところに来たんじゃあないのかい？』

そう、私はすっかり忘れていたのです。

一緒に居たいと思ったその『先』を。

この人のところで

強くなりたい

いたほうがとか、いないほうがとかそういう話ではありませんでした。

答えは、最初から私の中にあっただんです。

『私』が『強くなりたい』と思ったから、今私はここにいる。

私の、自分の意思で、ここにいるのだと。

その後彼は私に修行を提示してくれました。

よくよく考えれば、彼は今まで一度も私に修行方法を言っていないませんでした。

そのことを聞いたところ、「お前は最初に心の修行をすべきだったからね」とのこと。

どうやらあえて何も言わず、私がどう考えるかを見たかったらしいです。

何か悔しくて、電気をバチバチとためていたら、

「そして修行は大成功。いい顔になったよ」

と笑顔でなでられ、ためた電気をどこに放出したらよいか分からず、結局彼に当てました。

黒焦げになった彼の前であわあわしてしまいましたが、ちょっとすっきりしたのは内緒です。

そして3ヶ月後。私は彼の指導のおかげで、3ヶ月だけの修行とは思えないほど強くなりました。体も、心も。以前より自分の心に素直になれて、すっかり前を向けるようになりました。

些細なことで悩むようなこともありません。

そう、些細なことでは……

だから、毎度毎度食事のたびに喧嘩を始めるワニノコさんとデルビルの騒がしさは。

決して些細なことではないのですよ？

ええ、そうですとも。

ねえ、今まさに目の前で喧嘩をしているお二方……？

某日。気象研究センターは局地的な雷の発生を感知。

ポケモンが起こせない程とてつもない大きさだったが、自然的に発生するはずもない気象状態であったことがわかっている。

支部から局員を派遣させたが、落下地点が黒くこげていること以外には特に異常は見当たらず、『謎の巨大雷』としてしばらくセンターでの話のネタとなった。

同日。あるトレーナーのパーティでは、メリープに従順な僕と化したワニノコとデルビルの姿が見られたという・・・

(後書き)

何か思いつきで書いてしまいました。

小説自体を書くのがほとんど初めてで、とりあえず頭に浮かんだ設定を元にカチャカチャと打ち込んだだけのものです。いろいろ矛盾してたりとか分かりにくいところがあったりするかと思いますが、幅広い心で受け止めてやってください。

あ、でもひとつ(と作者が思っている)だけこの中で説明していないことがあり、「あれ?」と首をかしげる人もいるかもしれませんが、それは仕様です。

最初はその説明も入れようかと考えましたが、なんか無駄に長くなりそうで止めました。

ポケモンネタは前々から考えて設定だけ中途半端にできている感じ
です。

これがちゃんとした連載小説になるかどうかは、作者のやる気しだい
いですね(笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2507ba/>

メリープ()は怒っている！

2012年1月6日13時53分発行